

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：35307

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00312

研究課題名（和文）修験道の正統性を支えた山岳信仰偽史の研究

研究課題名（英文）Legitimacy for Shugendo, Supported by Forged Origins and History

研究代表者

川崎 剛志 (Tsuyoshi, Kawasaki)

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：70281524

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、三国伝来の日本仏教史の枠に準じつつ独自性を備えた、修験の起源と歴史の叙述が整備される過程を解明することである。

主に日本で最も神聖とされた大峯の縁起（『諸山縁起』等）を取り上げて、平安時代後期、大峯の両端にある金峯山・熊野の信仰の実態を反映しつつも、その参詣と埋経を大峯の山脈全体に敷衍するかたちで、天皇、高僧、聖による埋経の歴史が創出されたこと、そしてその偽史を踏まえて山岳信仰の儀礼が整備されると同時に、その偽史によって日本仏教史の叙述が更新されたことを解明した。また、その縁起の作文の内容と作者像を探る研究も進展させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

信仰の意味と歴史を記述する作業は、その主体の立ち位置から、あったはずのもの、あってほしいものを記述する作業となることが多い。そしてそれが書物となると、その書物を踏まえて修行と儀礼が行われ、さらに次の記述と書物が生まれる。日本の山岳信仰でも同様の現象が起きていたことを、平安後期から鎌倉前期に作られた大峯の縁起を取り上げて明らかにした。それは歴史を記述する行為とそれによって生まれた史書や縁起のもつ普遍的な性格であり、それを公表することで、歴史の記述を相対化する姿勢の必要性を社会に示すことができる。

研究成果の概要（英文）：This research is aim to disclose the process by which a unique narrative of the origins and history of Shugendo was developed, while following the framework of the history of Japanese Buddhism transmitted through the three countries.

Focusing mainly on the origins of Omine, considered the most sacred mountain in Japan, it was disclosed that a history of pilgrimages and sutra burials by the emperor, high priests and ascetics was created in the late Heian period, reflecting the actual state of faith in Kinpusen and Kumano, which are at either end of Omine, but extending these pilgrimages and sutras burials to the entire Omine mountain range, and that the rituals of mountain worship were developed based on this forged history, while at the same time the narrative of the history of Japanese Buddhism was updated by this forged history.

This research was also made into the quality of their writings and the image of their author.

研究分野：日本文学（古典）

キーワード：偽史 修験道 寺社縁起 山岳信仰 役行者 大峯 葛木峯

## 1. 研究開始当初の背景

山岳信仰の解明は人文学の重要課題の一である。それゆえ日本でも宗教学・民俗学・日本史・日本文学など多様な立場から研究が行われ、学際的な研究が展開されてきたが、近年、主に日本史学の研究成果(時枝務、長谷川賢二、林淳編『修験道史入門』、岩田書院、2015年)を踏まえて、山岳信仰一般と、顕教・密教とならぶ日本仏教の一道として成立した修験道とを区別して捉える見方が、学際的・国際的に共有されつつある。そうした共通の研究基盤に立って、顕・密・修験という正統の枠組みの形成過程を踏まえて、修験道の偽史の本文を読み解き、その役割と機能を解明する研究が必要となっている。

同時に、日本文学の分野で寺社縁起の研究が盛んに行われてきた状況も注目される。現代人の眼からみると、寺社縁起の内容は荒唐無稽で、その点が魅力であると評されることも多かったが、その種の評価にとどまることなく、縁起の社会的機能に踏み込んだ研究が国内外で始まっている。その代表がヘザー・ブレアの研究(JJRS42(1)縁起特集、Introduction、2015年)であり、特に欧米で高い評価を得ている。そうした縁起の捉え方も共有した上で、学際的・国際的な議論を展開する必要がある。

個別の研究対象についてみると、修験道の成立過程で複数の霊山の縁起が現れ、修験道の正統性を示し、支えるのに寄与してきた。『大峯縁起』『箕面寺縁起』『諸山縁起』『大菩提山等縁起』『金剛山縁起』等がその代表であるが、それぞれの霊山の聖性を支えてきた機能と、修験道の正統性を支えてきた機能とを切り結んで、精確に評価する必要がある。

## 2. 研究の目的

平安時代中期以降、山伏の修験は貴顕から厚い信頼を受けて、その験力への期待が高まっていたが、同時に密教の験力と異なり、日本仏教の正統から外れるとも認識されていた(『新猿楽記』ほか)。そうした認識を一部に抱えながらも、鎌倉時代後期に顕・密・修験という新たな正統の枠組みが成立したが、その成立のためには、修験の組織・儀礼・教学面(主に室町・江戸時代の文献による宮家準の包括的な研究がある)の整備とともに、三国伝来の日本仏教の起源と歴史に準じつつも独自性を備えた修験の起源と歴史が整備されなければならなかった。平安時代後期から鎌倉時代初期に現れたその主な縁起群、『大峯縁起』『箕面寺縁起』『諸山縁起』『大菩提山等縁起』を対象とし、個々の霊山の組織におけるそれら縁起の創出と受容のみならず、国家を代表する顕密寺院における縁起の受容と、縁起に依拠した日本仏教史の叙述の更新にも注目して、上述の過程を解明するのが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

五つのプロジェクトを設けて、研究代表者川崎と研究分担者仁木が協力して上述の目的を達成する。主担当は、(1)~(3)・(5)が川崎、(4)が仁木である。

### (1)『大菩提山等縁起』の基礎研究

原本(奈良・松尾寺蔵)を調査し、本文を精確に読解する。

### (2)『大峯縁起』『箕面寺縁起』『諸山縁起』『大菩提山等縁起』受容例一覧の作成 鎌倉~室町時代の文献資料を渉猟して、関係する文言を抽出し、一覧にする。

### (3)大峯=両界曼荼羅説の発生と受容の研究

鎌倉~室町時代の資料を渉猟して、その展開を解明する。

### (4)平安時代後期の寺社縁起作文における幼学書利用の研究

平安時代後期の漢文作文の全体像のなかで、寺社縁起の本文、特に『箕面寺縁起』の本文を精査し、作文担当者の専門知識と社会階層を推測する。

### (5)大峯信仰偽史の研究

上記プロジェクトの成果を踏まえて、本研究を総括する。

## 4. 研究成果

コロナ禍のため文献調査が中断され、国際交流が限定されたが、2年間の期間延長を経て、当初の目的をほぼ達成できた。すなわち、主な霊山の縁起の所説、偽史が、当該の霊山を超えて、社会で共有され、三国伝来を標榜する日本仏教史の叙述を更新し、現実の枠組みをも更新したことを解明した。以下、主な研究成果について、川崎剛志『修験の縁起の研究 - 正統な起源と歴史の創出と受容 -』(和泉書院、2021年)刊行と、各プロジェクトの成果に分けて述べる。

まず前者について述べる。この単著は主に旧稿に基づくが、日本学術振興会研究成果公開促進費(20HP5038)を受けて、新たに研究目的を設定し全面的に改稿したものであり、その構成、記述、及び結論には、本研究の成果が反映されている。本書は第30回日本山岳修験学会賞を受賞し、修験道研究の基本文献の一となっている。その構成は次の通りである。

第1章 院政期における大和国の霊山興隆と縁起

第2章 『箕面寺縁起』-真言密教の血脈への加筆

第3章 『大峯縁起』-奉納された縁起

第4章 『金剛山縁起』-仏典に載る靈山

第5章 熊野御幸再興と笠窟冬籠りの詠歌

第6章 修験の歴史の創出

次に後者、各プロジェクトの成果について述べる。

(1) 『大菩提山等縁起』の基礎研究

本文の精確な読解を行い、その成果を含む論文を執筆したが、収載予定の論文集の出版が大幅に遅れ、2024年の出版予定となった。また、本書の原本調査はできなかった。その代わりに、修験道資料の発掘の目的で、園城寺光清浄院新出資料の調査に着手した。2024年にその中間報告を行う。

(2) 『大峯縁起』『箕面寺縁起』『諸山縁起』『大菩提山等縁起』受容例一覧の作成

鎌倉～室町時代の資料を渉猟して従来成果を発展させた。その成果が川崎論文(2020a、英語、アメリカ出版社刊論文集)、同(2020b)。

(3) 大峯＝両界曼荼羅説の発生と受容の研究

鎌倉～室町時代の資料を渉猟した結果、たんに言説だけでなく、大峯での灌頂という儀礼の歴史叙述や実修と不可分のかたちで展開したことを解明した。その成果が川崎論文(2022、英文、ドイツ出版社刊論文集)、川崎発表(2023、国際学会)。

(4) 平安時代後期の寺社縁起作文における幼学書利用の研究

寺社縁起の作文担当者の専門知識と社会階層を推測した。その成果が仁木論文(2020a、英語、アメリカ出版社刊論文集)、同(2022)、同(2024)。縁起の作文に幼学書が用いられているとの指摘、また基礎知識を欠く点があるとの指摘は、平安時代から鎌倉時代の作文の全体像を再評価する議論に発展している。

(5) 大峯信仰偽史の研究

上記(1)(2)(3)を踏まえて、その成果をまとめた。埋経に関する考古学の成果を参照して、平安時代後期、大峯の南北の端、金峯山と熊野の信仰の実態を反映しつつも、そこから大きく飛躍するかたちで、天皇・高僧・聖らによる大峯信仰の偽史が創出されたことを解明した。論文の執筆を終えたが、大幅に遅延して、2024年の出版予定となった。

本研究の一つの柱であった、国際的展開については、コロナ禍のため予定通りに進まなかったが、上記の通り、アメリカ出版社(Bloomsbury)刊の論文集、ドイツ出版社(De Gruyter)刊の論文集に計3件の英文の論文を発表したほか、川崎が国際中世学会(リーズ大学、イギリス、2022)で西洋の修道院との比較研究の成果を報告し、またオンラインで国際的な議論に参加した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 1
2. 論文標題 精緻と日本仏教史の再創出 - 『金剛山縁起』の偽撰と受容	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 修道院制と中世書物 - メディアの比較宗教史に向けて - (八坂書房)	6. 最初と最後の頁 333-364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁木夏実	4. 巻 101-3
2. 論文標題 箕面寺縁起の表現について - 山岳表現を中心に -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 80-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁木夏実	4. 巻 20
2. 論文標題 藤原重隆『和漢兼作集』入集句をめぐって 院政期実務官僚の漢詩製作	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和漢語文研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 466
2. 論文標題 役行者の熊野参詣	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立能楽堂	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KAWASAKI Tsyuyoshi	4. 巻 0
2. 論文標題 Before the Appearance of Shugen Kanjo: Origin and History of a Forged Ritual	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Rituals of Initiation and Consecration in Premodern Japan: Power and Legitimacy in Kingship, Religion, and the Arts (De Gruyter、ドイツ)	6. 最初と最後の頁 377-389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 0
2. 論文標題 修験道の成立 - 仏法としての正統性を支える論理・言説・書物ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本宗教史3『宗教の融合と分離・衝突』(吉川弘文館)	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 0
2. 論文標題 En no Gyoja's Legitimization in the Context of Japanese Esoteric Buddhism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Defining Shugendo: Critical Studies on Japanese Mountain Religion (Bloomsbury、アメリカ)	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 仁木夏実	4. 巻 0
2. 論文標題 The Description of Mountains in Minoodera engi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Defining Shugendo: Critical Studies on Japanese Mountain Religion	6. 最初と最後の頁 145-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 10
2. 論文標題 笙窟の冬籠りの詠作	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 125-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎剛志	4. 巻 1
2. 論文標題 「覚城院宛増咄書状(二月三日付)」について 熊野参詣記事に注目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 寺院文献資料学の新展開	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 院政期における大峯修行の盛行と儀礼化
3. 学会等名 PJRWオンラインワークショップ(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 Image-Building on Kumano Pilgrimage in Medieval Japan: Origin, History, and Geography
3. 学会等名 International Medieval Congress 2022(リーズ大学、イギリス)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 鎌倉中期の金剛山大規模修造と『金剛山縁起』－ノ橋文庫蔵『金剛山勸進帳』（弘長二年、真祐自筆署名）をめぐって
3. 学会等名 仏教文学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 祖師の事績と教団のアイデンティティ－智証大師の熊野参詣を例に－
3. 学会等名 シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性－宗教遺産テキスト学の発展的展開－」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 霊山の縁起から修験の縁起へ
3. 学会等名 日本山岳修験学会特別例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 霊山・神倉山と蓬萊山の縁起伝承景観
3. 学会等名 熊野歴史文化シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎剛志
2. 発表標題 聖地と日本仏教史の再創出 - 『金剛山縁起』の偽撰と受容-
3. 学会等名 ReMo研シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Andrea Castiglioni, Fabio Rambelli, Carina Roth, Kawasaki Tsuyoshi, Max Moerman, and Caleb Carter
2. 発表標題 Defining Shugendo
3. 学会等名 九州大学IMAP Lecture (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 川崎剛志、時枝務、徳永誓子、長谷川賢二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 314
3. 書名 論集修験道の歴史1 修験道とその組織	

1. 著者名 川崎剛志、時枝務、徳永誓子、長谷川賢二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 340
3. 書名 論集修験道の歴史1 修験道とその組織	



1. 著者名 川崎剛志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 224
3. 書名 修験の縁起の研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	仁木 夏実  (Niki Natsumi)  (40367925)	京都府立大学・文学部・准教授    (24302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------